

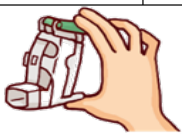
## ～吸入デバイスの概要と特徴について～

吸入薬は正しく吸入することで、初めて本来の効果を発揮します。病態を悪化させないためにも正しい吸入方法を習得するとともに、自分に合った吸入器を使うことがとても重要です。

### ★各吸入薬の概要と特徴

吸入薬のデバイスは大きく分けて、**ソフトミストインヘラー(SMI)**・**定量噴霧吸入器(pMDI)**・**ドライパウダー式吸入器(DPI)**の3つに分類されます。

種類	ソフトミストインヘラー(SMI)	定量噴霧吸入器(pMDI)	ドライパウダー式吸入器(DPI)
特徴	噴霧ガスを使わずに、薬剤を含んだやわらかく、細かい霧をゆづり生成し噴霧させることで、有効成分を効果的に肺へ送ります	ポンベを押すことで吸入器から霧状の薬剤を噴霧させて吸入します	粉末状の薬剤を吸入器にセットし、自身で吸い込むタイプの吸入器です
メリット	呼吸機能が低下している患者さんにも有効成分を肺へ送りやすい(乳幼児にも使用可能)	呼吸機能が低下している患者さんに使用しやすい(小児、高齢者、発作時) 小型軽量で携帯性に優れている	自身のペースで吸入可能 残量が把握しやすい デバイスが多種類あるため患者さんの状態に応じて薬剤選択が可能
デメリット	セットなどにおいて事前作業が必要(ある程度の力が必要)	噴霧と吸入の同調が必要 ☞ <b>スパーサー(吸入補助器具)*</b> を用いることで解決可能	薬剤を微細化するために一定以上の吸気流速(吸う速度)が必要。ただし、吸気流速が速すぎると十分に吸い込むことができないことがある
薬剤	スピリーバレスピマットなど 	メブチンエアーなど  ※吸入器の噴霧口と口との間にセットして使用。薬剤をスパーサーの空間に滞留させて、充滿させた薬剤を吸入  ↓実際、こんな感じのものです 	アドエアディスカスなど 



←pMDIは、吸入器のボタンを指で押して薬を噴射させますがスパーサー以外にも指の力が不十分な場合や押しにくい場合などの為に作られた補助器具もあります。吸入器ごとにメーカーが無償で配布しているので、必要と感じた際は薬局で相談してみてください。

薬剤としては、以下のものがあります。

◇**吸入ステロイド薬(ICS)**:強力な抗炎症作用があります。気道狭窄や気道過敏性を改善します。

嚔声、口腔カンジダ症などの副作用があります。**吸入後のうがいの徹底!**

◇**β<sub>2</sub>刺激薬**:気管支平滑筋を弛緩させ、気道を広げる薬剤です。

頻脈、動悸、手指振戦などの副作用があります。

LABA(長時間作用性):発作予防に使用、SABA(短時間作用性):喘息発作時に使用

◇**抗コリン薬**:気管支の収縮を抑え、気道を広げる薬剤です。

口渇、吐き気、排尿困難、便秘などの副作用があります。

**緑内障、前立腺肥大等による排尿障害のある患者さんには禁忌!**

LAMA(長時間作用性)、SAMA(短時間作用型)

★何かご質問などがありましたら、かかりつけまたは当院薬剤師までご相談下さい。

西新潟中央病院

